

問題 1 下記の文章の空欄に該当する語句で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：5.2 SDGs の全体像と狙い

問題 2 下記の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

公式テキスト：1.1 CSR 担当者に求められる思考と行動

1.3 中小企業の CSR 戦略

問題 3 ISO26000 の「組織の社会的責任の定義」に関する下記の文章の空欄に該当する語句で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト：はじめに CSR の Why, What, How を知る

問題 4 下記の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

公式テキスト：1.2 CSRとCSVの新しい位置づけ

問題 5 次の文章の空欄に該当する語句で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：2.1 国際的な CSR イニシアティブ

2.2 ソフトローからハードローへの新潮流

問題 6 企業のCSR担当者が「ビジネスと人権」プログラムを日本国内で実践するにあたって、適切なものはいくつ

あるか。

正答：ウ

公式テキスト：2.3 「ビジネスと人権」に関する国際的な枠組み

問題 7 下記の文章の空欄に該当する語句・数字で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：5.6 ESGの情報発信/サステナブル金融の流れ

問題 8 下記の中で、国際的な CSR イニシアティブに該当しないものを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：2.2 ソフトローからハードローへの新潮流

問題 9 下記の中で、認証制度に該当しないものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト： 2.4 社会・環境に配慮した認証制度

2.5 日本で開発された CSR イニシアティブ

4.5 株主・投資家としての責任

問題 10 UNPRIに関する下記の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト： 4.5 株主・投資家としての責任

5.6 ESG の情報発信/サステナビリティ投融資の流れ

問題 11 下記の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト： 2.6 サステナビリティ報告のガイドライン

4.3 NGO/NPO による企業評価

問題 12 下記の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト： 3.5 サステナビリティの情報開示/レポーティング

問題 13 下記の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト： 2.6 サステナビリティ報告のガイドライン

問題 14 「CSR 目標設定の考え方」について話しています。 ISO26000、SDGs の理念に照らし、最も適切な発言をしている社員は誰か。

正答：エ

公式テキスト： 3.4 CSR 指標の設定とインパクト評価

問題 15 次の文章の空欄に該当する語句で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：エ

公式テキスト： 3.2 CSR のビジョン確立、システム構築、教育

3.4 CSR 指標の設定とインパクト評価

問題 16 「マテリアリティの特定」に関する下記の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：エ

公式テキスト： 3.3 マテリアリティの特定

問題 17 下記の記述で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト： 3.6 ダイアログとエンゲージメント

問題 18 次の文章の空欄に該当する語句で、最も適切な組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト： 4.2 CSR における NGO/NPO の役割

問題 19 下記の中で、「FTSE4Good Index」の評価基準に該当するものはいくつあるか。

正答：ウ

公式テキスト： 4.5 株主・投資家としての責任

問題 20 「CSR報告書をステークホルダー視点で読む」に関する下記の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：ウ

公式テキスト： 4.6 CSR報告書をステークホルダー視点で読む

問題 21 日本の「コーポレートガバナンス・コード」に関する次の記述で、不適切なものはいくつあるか。

正答：ア

公式テキスト： 5.4 コーポレートガバナンス・コードの策定と改定

問題 22 「CSRを経営統合する」に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：エ

公式テキスト： 3.1 CSR マネジメントの考え方

問題 23 日本の「ダイバーシティ&インクルージョン」に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト： 5.5 ダイバーシティ&インクルージョン

問題 24 「気候変動にかかわる動き」に関する下記の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：イ

公式テキスト： 5.3 気候変動にかかわる動き

問題 25 下記の中で、国際消費者機構（CI）が提唱している「消費者の5つの責務」に該当しないものを一つ選べ。

正答：エ

公式テキスト： 4.4 消費者の役割/エシカル消費/サステナブル消費

記述式問題（10 点×2 問）

問題 26：サステナビリティや CSR、SDGs の取り組みが、企業の価値を高めるプロセスを記述しなさい(400 字以内)
(解答例)

企業が社会からの要請に応える「社会対応力」を高めることで、市場ニーズの先にある「社会ニーズ」を取り込み（SDGs アウトサイドイン）、他社にはつかみにくい「未来の顧客」を創造することができる。CSR の取り組みを進めることは ES（従業員満足度）や CS（顧客満足度）の向上にも役立つ。社会の持続可能性に貢献し、社会から評価される企業は、社員のプライド・やる気を高められる。社員がプライドを醸成できれば、不祥事の防止にも役立つ。同時に、サプライチェーンの人権問題など、サステナビリティ領域における潜在リスクをいち早く察知し、その防止や対策に役立てられる。ダイバーシティ（多様性）を実現できている組織の方が、より柔軟に社会課題に対応でき、リスク対応力も高いとされる。ESG（環境・社会・ガバナンス）投資の面からも、投資先の選定においてサステナビリティの取り組みが重視されるので、継続的な取り組みが重要である。(399 文字)

※2021 年版「2 級公式テキスト」10－11 ページ参照

問題 27：企業は人権の問題にどう取り組むべきか、最近の事例も入れて記述しなさい（400 字以内）

人権問題では、日本政府が 2020 年 10 月、国別行動計画（NAP）である『『ビジネスと人権』に関する行動計画（2020－2025）』を公表した。この計画では「SDGs の実現と人権の保護・促進は相互の補強し合い、表裏一体の関係にある」と強調された。「ビジネスと人権」を実践するには、日々の事業活動、つまり普段の仕事から出発し、それらと「国際人権基準」をつなぐことが必要だ。「人権」の理解を社内に十分に根付かせるためには、①社内の理解者を増やすこと②人権の理解を浸透させ、取り組みを回していくための仕組みづくりを行うこと③NGO/NPO など社外の人脈作りなどが重要だ。サプライチェーンの人権問題においては、取引先や製造委託業者などによる強制労働や過剰労働、不当な賃金制度などが無いかなど「人権デューデリジェンス」を定期的の実施し、その結果に不備や不明な点があれば、取引先に改善を求めていく姿勢が重要だ。(400 文字)

※2021 年版「2 級公式テキスト」32－33 ページ参照